

電気は
足りている

「原発ゼロ」の 政治決断を

福島ではいまだに14万人もの人々が過酷な避難生活を余儀なくされているにもかかわらず、安倍政権は、原発の再稼働と輸出に躍起になっています。大飯原発の稼働差し止め判決は、経済活動やコスト優先で原発推進政策を続ける愚かさを断罪しました。まともな避難計画も作らず安全性の確認もできない原発の再稼働などあってのほかです。政府は今こそ原発ゼロの政治決断をすべきです。

企業の利益より命が大事

—大飯原発稼働差し止め判決—

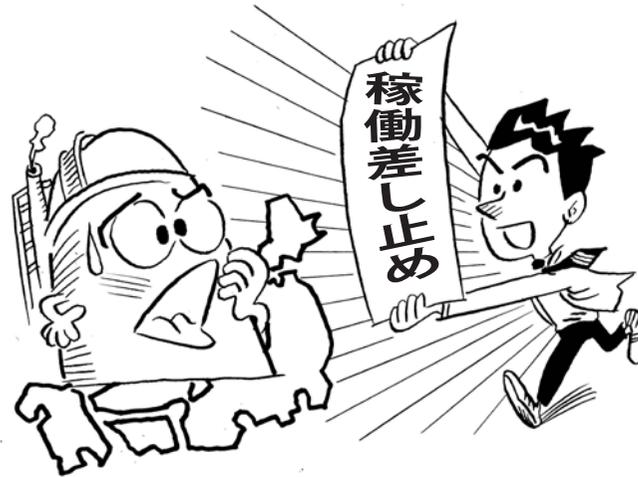
5月21日、関西電力大飯原発3号機、4号機の運転差し止めを求めた住民訴訟で、福井地裁は、同原発の地震対策の不備等を認め、「250キロ圏内の住民には具体的な危険がある」として、運転差し止めを命じました。判決は、電力会社の責任を明確にし、大飯原発の安全技術や設備、地震対策は、「基準地震動を超える地震が起きないという楽観的見通し」に立った「脆弱なもの」であるとして、政府、電力会社の姿勢の不当性を指摘しました。

判決の立場は極めて明白で、原発の稼働は命にかかわる問題であり、経済活動など他の課題と並べて判断すべきでないとの立場で一貫しています。

大飯原発訴訟判決骨子

- 大飯原発3・4号機を運転してはならない
 - 250*₁圏内の住民には原発運転で具体的な危険がある
 - 安全技術や設備は確たる根拠のない楽観的な見通しに基づき脆弱
 - 地震の際、原子炉を冷やす機能と閉じ込める構造に欠陥
 - 基準地震動を超える地震が来ない根拠はなく、それに満たない地震でも重大事故が生じうる
 - 福島原発事故は最大の環境汚染。二酸化炭素の排出削減は運転継続の根拠にならない
- 5月22日付東京新聞より

2014.6



せん だい

川内原発の再稼働は論外

—13日は、現地・全国で抗議・宣伝—

原子力規制委員会は、九州電力川内原発の優先審査を決め、再稼働が狙われています。

しかし、川内原発をめぐるのは、活断層や火砕流、避難計画など大きな問題点が指摘されており、こうした問題を無視して、ずさんな「審査」で再稼働などとんでもありません。地元ではこのような拙速で危険な川内原発の再稼働を中止すべきとの声があがっています。

ストップ再稼働！3.11鹿児島集会実行委員会は、6.13県議会「再稼働させない」行動集会にとりくみます。全国各地でこれに呼応した行動が行われています。

6.28
NO NUKES DAY

川内原発を再稼働させるな！

「さようなら原発
☆首都大行進」を
成功させよう

- 6月28日(土) 明治公園
13:00~14:30 集会
- 終了後デモ行進
明治公園~代々木公園解散

主催：原発をなくす全国連絡会、首都圏反原発連合、
さようなら原発1000万人アクション

「再稼働反対」の
大きな声を上げよう